



World Masters Games 2021 KANSAI

関西ワールドマスタースゲームズ2021 大会基本計画



大会マスコット「スフラ」
Sufula

~Sport for Life~

■目次

本基本計画の位置付け	2
第1章 大会概要	
1 ワールドマスタースゲームズの特徴とその効果	3
2 関西ワールドマスタースゲームズ2021の特徴と取組姿勢	5
第2章 大会基本構想	
1 大会基本理念・大会コンセプト・大会エンブレム・大会テーマ	6
2 大会基本姿勢	7
第3章 レガシー創出の基本方針	
1 レガシーを最大化するための基本視点	8
2 レガシー創出の方向性	9
第4章 大会推進構成	
1 大会準備における推進体制	10
2 各種計画の策定	12
第5章 大会フレーム及び機能	
大会フレーム及び機能一覧	13
[大会フレーム]	
1-1 大会運営体制	14
1-2 参加申込・出場登録	17
1-3 公式競技	18
1-4 デモンストレーション競技	20
1-5 開閉会式・中間イベント・EXPO・レセプション	21
[大会機能]	
2-1 大会記録・発信	22
2-2 安全対策・医療救護対策・危機管理対策	23
2-3 宿泊・交通（輸送）	25
2-4 観光・文化	26
2-5 広報・マーケティング	27
2-6 知的財産の活用と保護	28
2-7 企業・団体協賛	29
2-8 ボランティア	30
2-9 出入国	31
2-10 言語サービス	32
2-11 財政	33
2-12 IMGGA	34
第6章 推進スケジュール	36

本基本計画の位置付け

2021年5月15日、この日から関西全域を舞台にして、国際色が満ち溢れ、個性が輝く熱い戦いと交流の渦が巻き起こる「関西ワールドマスターズゲームズ2021」が開幕する。

このワールドマスターズゲームズは、おおむね30歳以上であれば、だれもが参加できる4年に一度開催される生涯スポーツの国際総合競技大会で、参加者の多くは競技と観光の両方を目的に開催地域を訪れる。第10回の記念大会となる2021年の本大会は、日本初、アジア初となるもので、関西全域での広域開催は、これまでの一都市開催の歴史をも塗り替える画期的な大会となる。

この本大会の特徴を十分に引き出し、かつ、ラグビーワールドカップ2019や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に連続して開催するチャンスを最大限に活かして、生涯スポーツの先進地である関西の豊富なスポーツ資源と観光資源を融合させ、日本が持つおもてなしの精神をもって世界の人々が感動するスポーツツーリズムの体験を提供するとともに、マスターズゲームズやわが国の生涯スポーツの転換点ともなるような先導的な大会をめざして、文部科学省を中心に各省庁との連携や日本体育協会をはじめとする関係団体、経済界をも含めたオールジャパン体制で創りあげるべく、その推進母体として、各界各層が一体となった関西ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会を組成した。

2015年5月の組織委員会理事会では大会基本構想を取りまとめ、その中で「一人ひとりの挑戦と多様な交流の和をつなげ、地域の独自性や日本の伝統・文化を世界に発信し、次世代に夢をおくる祭典を創出する」という大会の基本理念を高らかに宣言した。

本基本計画は、大会基本構想の実現に向け、また大会開催までの期間に着実に準備を進めていくための枠組みを定めたものである。

第1章では、ワールドマスターズゲームズの特徴と本大会の概要を、第2章では、大会基本構想を明記した。

第3章では、大会の開催により様々な分野で成果や便益を遺していくためのレガシーアクションについて、能動的に展開していくための推進方針を定めた。

第4章では、各関係者全員が連携を図りながら主体的に取組を推し進めていくため、推進体制や実施計画体系などの推進構造を定めた。

第5章では、大会の基本的な構成要素となる大会フレームと、開催のために必要な大会機能やその取組目標などを体系的にまとめ、項目ごとに取組の目標、基本フレーム及び役割分担などを取りまとめた。

第6章では、第5章で定めた大会のフレーム及び機能ごとに、大会準備段階から開催後までの推進スケジュールを示した。

今後は、本基本計画に基づいて、各関係機関が適宜検証を行いながら具体的な実施計画を策定し、着実に業務を推進していくものとする。

1 ワールドマスターズゲームズの特徴とその効果

■多様な交流が生まれる世界最大の一般参加型国際総合競技大会

「ワールドマスターズゲームズ」は、オリンピックなどの選ばれたアスリートのための競技大会とは異なり、おおむね30歳以上であればだれもが参加できるスポーツ愛好者のための競技大会である。1985年にカナダのトロントで第1回大会が開催されて以来、世界各国から多くの選手が参加し、2009年のシドニー大会ではオリンピック競技大会の3倍もの選手数となるなど、一般参加型の国際総合競技大会として世界最大規模を誇る。

参加国も、北米、オセアニア、ヨーロッパを中心に、シドニー大会では95か国、2013年のトリノ大会では107か国と多くの国・地域から選手が参加している。

また、おおむね30歳以上であればだれもが参加できるという大会の参加資格から、性別や国籍などに関係なく幅広い世代の方が参加する大会である。

そのため、開催地域では多世代・多地域・多文化の交流が活発に繰り広げられる点において、他の競技大会とは異なる大きな特徴がある。

■スポーツと観光を楽しむ大会

「ワールドマスターズゲームズ」の参加者は、競技に参加してスポーツを楽しむだけでなく、家族や知人を連れ立って大会前後の期間にも開催地に滞在し、周辺の観光地巡りなども楽しむ方が多い。特に海外からの参加者は、ツーリズムのきっかけとして大会に参加する方が多く、国内からの参加者に比べて滞在日数も長期間に渡り、グループの規模も大きいことが過去のデータからも明らかである。

これらの大会参加者の特徴から、開催地域へ多くの経済効果をもたらすだけでなく、参加者を通じて地域の文化や観光資源など地域の魅力を国内外に発信することができる。日本はもとより、優れた観光資源を数多く擁する関西が、主体的なスポーツツーリズムの取組を万全の準備をもって進めることにより、これまでの大会とは比較にならない大きな成果を得ることができる。

さらに、各地で開催される競技において、多世代、多地域、多文化の多様な参加者の受入を地域全体で取り組むことにより、地域の組織や人材が活性化され、埋もれていた地域の魅力の再発見や郷土愛の再確認にもつながるなど、まさに地域創生の取組と軌を一にするものである。

1 ワールドマスターズゲームズの特徴とその効果

◀参考▶これまでの大会参加者データ (IMGA提供、ワールドマスターズゲームズガイドライン)

●平均年齢

49歳

年齢区分

40歳以下19%、41～50歳33%、51～60歳32%、61歳以上16%

●男女分布

男性56%、女性44%

●グループで参加する選手

国内選手 (地元以外) 57%

国外選手 52%

●グループの平均人数

国内選手 (地元以外) 3.3人

国外選手 3.7人

●平均滞在日数

国内選手 (地元以外) 9.4日

国外選手 15.8日

●各大会の参加国、参加者数

<p>第1回(1985) トロント ＜カナダ＞</p>  <p>61か国・8,305人</p>	<p>第2回(1989) ヘアニング、 オールボー、オーフス ＜デンマーク＞</p>  <p>76か国・5,437人</p>	<p>第3回(1994) ブリスベン ＜オーストラリア＞</p>  <p>71か国・23,659人</p>	<p>第4回(1998) ポートランド ＜アメリカ＞</p>  <p>101か国・11,000人</p>	<p>第5回(2002) メルボルン ＜オーストラリア＞</p>  <p>97か国・24,886人</p>
<p>第6回(2005) エドモントン ＜カナダ＞</p>  <p>89か国・21,600人</p>	<p>第7回(2009) シドニー ＜オーストラリア＞</p>  <p>95か国・28,676人</p>	<p>第8回(2013) トリノ ＜イタリア＞</p>  <p>107か国・19,000人</p>	<p>第9回(2017) オークランド ＜ニュージーランド＞</p>  <p>約25,000人(目標)</p>	<p>第10回(2021) 関西エリア ＜日本＞</p>  <p>約50,000人(目標)</p>

2 関西ワールドマスターズゲームズ2021の特徴と取組姿勢

■アジア初の開催となる大会

これまでの大会は、マスターズスポーツが盛んな北米、ヨーロッパ、オセアニア地域で開催されたが、第10回目となる本大会は、アジアでの初開催となる。

このため、アジアにおけるマスターズ文化のパイオニアとなり、また、アジアのツーリズムの起爆剤となる大会とするため、北米などこれまでからマスターズスポーツが盛んな地域でのPRに加えて、関西とアジアのアクセスの良さも十分に活かし、アジア各国に潜在しているマスターズスポーツへのニーズの掘り起こしや訪日旅行者の取り込みなどを積極的に推し進める。

■初の広域開催となる大会

本大会は、ワールドマスターズゲームズの歴史において、関西という広域エリアを開催地とする史上初めての大会であり、関西のみならずわが国全土にスポーツ・文化・産業など様々な分野の効果を生み出す大会である。

この広域開催の効果を最大限に引き出すため、小さな星の輝きから星雲が築かれるように、各府県政令市実行委員会が地域独自の工夫を凝らした取組を競い合いつつも、関係者全員が綿密に連携を取り、オールジャパンの体制で世界の人々に感動を与える最高のホスピタリティを添えた一体的な取組を推し進めることで、各開催地域の有形無形の資源の顕在化と結集を図り、関西・日本の文化・産業の活性化につなげていくなど、地域の創生に取り組む。

■過去最大規模の大会

第10回目となる本大会は、日本・アジアにふさわしい種目も取り入れた過去最大の競技種目数を予定する。選手数についても国内から3万人、国外からは2万人、合計5万人と過去最大規模を目標に、各自治体の姉妹友好提携先へも積極的に参加を呼びかけるなど、国内外の参加者拡大に努める。また、競技に参加しない家族や友人などを含めると15万人を超える人々が大会期間の前後を含めて開催地を訪れる予定であり、連日、子供から大人まで幅広い世代の交流やにぎわいを生み出すなど開催地に大きな熱気をもたらす。

また、広域開催であることや多彩な競技種目を実施することから、開催期間も10日間程度であったこれまでの大会より長い16日間に設定した。

全ての面において過去最大規模である本大会は様々な分野で大きな効果を生み出すものとなるが、それらをさらに高めるため、関係者全員が一体となったオールジャパンの体制で、日本が持つおもてなしの精神を最大限に発揮する取組を推し進め、世界の人々が感動する最高の舞台を提供する。

■大規模国際スポーツ大会の連続開催

2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに続き、2021年に本大会が開催され、日本国内において3年連続で大規模な国際スポーツ大会が開催される。

この歴史的なチャンスを活かし、各大会が準備段階から情報の共有と連携した取組を推し進め、大会運営のスキルやノウハウを積極的に継承するなど両大会の成果を本大会にしっかりと取り入れ、相乗的に生かしながら、ラグビーワールドカップと東京オリンピック・パラリンピックで高まった「みる」スポーツの機運を本大会の「する」スポーツにつなげて、わが国の生涯スポーツ社会の実現に寄与する。

《大会概要》

大会名	関西ワールドマスターズゲームズ2021
(英語表記)	World Masters Games 2021 KANSAI
開催期間	2021年5月15日(土)～30日(日)(16日間)
開催競技	公式競技、オープン競技、デモンストレーション競技
開催場所	関西一円(2016年10月に競技種目、会場地を決定)
開催目標	選手5万人(国内3万人、国外2万人:150か国・地域以上)
主催	一般財団法人関西ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会
共催	公益財団法人日本体育協会

1 大会基本理念・大会コンセプト・大会エンブレム・大会テーマ

関西ワールドマスタースゲームズ2021の礎となる大会基本理念は、次のとおりである。

<大会基本理念>

一人ひとりの挑戦と多様な交流の和をつなげ、地域の独自性や日本の伝統・文化を世界に発信し、次世代に夢をおくる生涯スポーツの祭典を創出する。

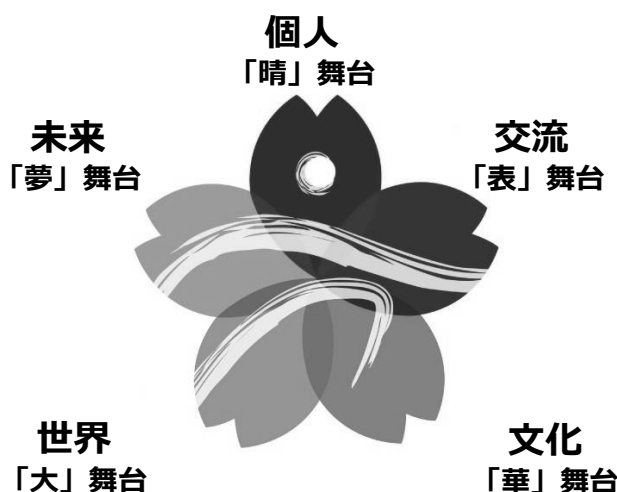
- 1 日本の歴史・文化が集積する関西で、生涯スポーツ先進地域としてわが国のスポーツ文化を世界に発信
- 2 関西で育まれてきた人的資源やおもてなし文化を発揮しながら、後世に残る世界最高峰の生涯スポーツ大会開催
- 3 2019年、2020年に開催されるラグビーワールドカップと東京オリンピック・パラリンピックとの一体的推進により「みる」「支える」スポーツの機運を「する」スポーツへの醸成
- 4 開催地の主体性を発揮した広域開催による地域創生
- 5 スポーツと観光を融合させたスポーツツーリズムによる地域活性化の促進
- 6 健康・スポーツ関連産業の更なる振興を推進
- 7 高齢化の進展を視座に入れ、成熟社会におけるスポーツを通じた健康社会への寄与

上記の大会基本理念を象徴するものとして、次の5つのワードを大会コンセプトとして定め、大会エンブレムの桜の花びらの一枚一枚に表現した。

<大会コンセプト>

- 1 **個人**（個性が輝く）「晴」舞台
一人ひとりの挑戦と可能性を開く
- 2 **交流**（多様性が交わる）「表」舞台
世代・地域・文化がつながる
- 3 **文化**（関西を魅せる）「華」舞台
関西の魅力と文化を発揮する
- 4 **世界**（グローバルを体感する）「大」舞台
国際的に溢れ感動を共有する
- 5 **未来**（将来に伝える）「夢」舞台
次世代にエネルギーと躍動感をおくる

<大会エンブレム>



大会テーマは、大会創設時に提唱された「スポーツ・フォー・ライフ（人生を豊かにするスポーツ）」の理念を基軸に、大会コンセプトによる大会基本理念が関西で開花するという歴史的な瞬間を表現した。

<大会テーマ>

スポーツ・フォー・ライフの開花
(The Blooming of Sport for Life)



2 大会基本姿勢

大会コンセプトの実現に向けた基本姿勢を次のとおり定め、基本姿勢の取組を推進し、レガシーとして未来へ継承する。

<大会基本姿勢>**1 【元気で活力ある生涯スポーツ社会の実現】**

高齢社会と人口減少が進展する我が国において、働き方も含めた健康志向のライフスタイルを通じ、元気で活力ある「生涯スポーツ社会」を実現する。

2 【多様な交流を通じた相互理解の増進】

互いを尊重し、参加者や地域も含めた多世代・多地域・多文化の個人や集団の交流を通じた相互理解を促進し、多様性の集結による共感と一体感を生み出す。

3 【オールジャパン体制で関西圏による広域開催】

関西一円の広域開催という先駆的なスタイルで、既存施設の活用など、豊かなスポーツ環境や文化資源及び観光資源を融合させ、オールジャパン体制でメガ・スポーツイベントの新たなモデル構築をめざす。

4 【2019-2021年国際スポーツ大会の連携開催】

ラグビーワールドカップ2019、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会などの国際競技大会や各種国際会議と連携した取組を推進することにより国際交流や地域活性化を促進する。

5 【アジア諸国との協力開催】

アジア初の開催地として、日本、特に関西がアジアの中核としてアジア全体の友好化と活性化に貢献し、大会の成功と感動を共有する。

6 【「はなやか関西」の世界への発信】

関西の文化、観光、産業、環境など、関西の優れたコンテンツを発信し、インバウンドを強力に促進する。

7 【日本を代表する文化を発信するための取組を幅広く展開】

関西各地で育んできた豊富な文化資源を活かし、東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム等と連動し、魅力ある日本文化を発信する。

8 【スポーツカを通じて安全・安心で活力ある日本・関西を世界へ発信】

東日本大震災から10年目の節目の年を迎え、国内外からの支援に対し感謝の意を表し、教訓を活かすため、阪神・淡路大震災等を経験した関西として、スポーツの持つ人々を元気づけ、感動させる力を世界へ発信する。

9 【マスターズスポーツムーブメントの推進】

産学官民の共同プロジェクトと位置づけ、マスターズスポーツムーブメントに対して、協力と共感を伴った推進力を創造する。

10 【プレイヤーズファーストの実現】

国内外から集まった選手や家族を関西各地で歓迎し、参加者の目線に立ったサポート体制を充実し、最高のパフォーマンスと感動を共有できるようおもてなし文化を発揮する。

1 レガシーを最大化するための基本視点

関西ワールドマスタースゲームズ2021では、単に国際総合競技大会の開催に留まらず、大会の開催によってもたらされる様々な分野の成果や便益を積極的に次世代に遺していくため、長期にわたって継承・享受されるレガシーの創出について検討し、大会開催の準備と並行して具体的なアクションを展開していく。

2015年5月に策定した大会基本構想では、「元気で活力ある生涯スポーツ社会の実現」など10項目からなる基本姿勢の取組をまとめ、これらの取組を力強く推進することにより、レガシーの創出に繋げていくことを位置づけた。

さらに、2016年度には、様々な分野の専門家や有識者で構成する「レガシー策定委員会（仮称）」を新たに設置し、大会の開催後にどのような成果や便益が継承・享受されるのかといったレガシーの創出作業とともに、それらのレガシーを積極的に遺していくため、大会開催の準備段階からどのようなアクションをしていくべきかを検討する。

本章では、レガシーの創出の計画づくりにあたり、レガシーの成果や便益を最大化するために必要な基本視点を定めるとともに、レガシーアクションのについて整理を行う。

■レガシーを最大化するための基本視点

レガシー創出にあたっては、過去のワールドマスタースゲームズの実績を継承し、かつ本大会の歴史的タイミングや特徴などを総合的に踏まえ、各分野の関係者が連携してアクションを展開していくことが、レガシーを最大化するために必要である。

そのため、以下4項目を基本視点として、レガシー創出の計画づくりを進めていく。

1 新たなレガシーの創出

過去に開催された大会固有のレガシーを継承するとともに、生涯スポーツの先進地関西での広域開催となる本大会の特徴を活かした新たなレガシーを創出する。

2 相乗レガシーの協創

2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、そして2021年の本大会と、日本国内において国際スポーツイベントが連続開催される中で、3つの大会が連携した相乗レガシーを協創し、全体効果を高める。

3 ローカル・レガシーの創出とグローバル・レガシーの可能性の追求

大会史上初の広域開催となる先駆的な大会として、関西各地の多様性と独自性を重視した、ローカル・レガシーの創出をめざすとともに、初のアジア開催となる本大会を、アジアにおけるマスタース文化のパイオニアやツーリズムの起爆剤となるものとするため、グローバル・レガシーを生み出していく可能性を追求する。

4 レガシーの共同実現

創出されたレガシーが、人や地域にしっかりと根付き、未来に引き継がれるよう、その創出にあたっては、多くの個人や関係団体への主体的な参画を促し、連携しながら、様々なプロジェクトを積極的に展開する。

2 レガシー創出の方向性

■レガシー創出の方向性

大会の開催によりもたらされるレガシーが広範囲に効果や恩恵を及ぼし、様々な分野や世代で活性化や活力化が推進されるよう、5つの大会コンセプト（個人、交流、文化、世界、未来）を基にして、様々な分野におけるレガシーの創出テーマとアクションの方向性を列挙する。

1 個人（個性が輝く）

- 障がい者を含めた幼少期から高齢期までの全ての方の生活に活動性と積極性をもたらし、健康的なライフスタイルを実現する。
 - ◇各ライフステージに応じた人々の生涯スポーツの幅と質を高め、より成熟した地域スポーツ文化の振興と生涯スポーツ社会の活性化を促す。
 - ◇高齢社会を迎え、活動性を伴った健康増進活動を推進することにより、健康長寿社会の実現に寄与する。

2 交流（多様性が交わる）

- コミュニティやソフト・ハード・ヒューマンウェアに関わる地域環境に変化をもたらし、地域創生・再創・再活性化に繋げる。
 - ◇開催地域におけるコミュニティの活性化や独自の文化・風土などの情報発信により、地域創生や生涯スポーツ社会の活性化に繋げる。
 - ◇関係部署の広域連携や分野連携を進めることにより、地域力の総合強化に繋げる。

3 文化（関西を魅せる）

- 開催地域の文化や産業に関わる伝統や資源・能力を集結し、成長させる。
 - ◇開催地域の様々な地域資源を顕在化させ、関西の世界的観光地としての力と魅力をさらに拡大させる。
 - ◇スポーツ市場、健康市場、観光市場に代表される大会に向けて活性化が期待できる経済活動の活性化を促進する。

4 世界（グローバルを体感する）

- マスタース文化（活力ある成熟社会）のムーブメントをアジアと世界に広め、主催地と大会の世界観の拡大に寄与する。
 - ◇開催準備を通じて開催地域の国際的視野の広がりを促進し、関西の国際化とKANSAIブランドの構築を加速化させる。
 - ◇アジア初の開催国として、マスターススポーツムーブメントのアジア普及に向けた発信起点となり、アジアのマスタース文化の向上に寄与する。
 - ◇多世代・多地域・多文化などの多様性のある参加者の交流や感動の共有により、様々な世界観の拡大を参加者と地域にもたらす。

5 未来（将来に伝える）

- 参加者、ボランティア、運営者など、大会に関わる全ての者に対し、次世代を見据えた教育・科学・研究活動を活性化させ、未来に対してさらなる発展・深化をめざすための価値観を醸成する。
 - ◇大会に関わる全ての者に対し、大会に関わる様々な学習機会と情報源を開発・提供し、個々人の力量の形成を促す。
 - ◇大会準備過程における様々な理論的・実践的データを蓄積・分析することにより、情報収集媒体やデータベース等の情報基盤の発展を加速化させる。

1 大会準備における推進体制

大会開催の準備にあたっては、大会全体の効果を最大限に引き出すため、関係者全員が同じ目標を共有し、各関係者が持つノウハウや強みを発揮して協力連携することが重要であり、それらを実現するための推進体制を整備する。

■推進体制

●組織委員会及び各府県政令市実行委員会

大会開催の準備にあたり、各分野の個人や団体が参画する組織委員会及び各府県政令市実行委員会を推進体制の中心に据えて、関係者の協力連携を図っていく。

・組織委員会

2014(平成26)年12月に、国・地方自治体・経済界・スポーツ関係団体・大学関係をはじめ様々な分野の個人や団体が参画する大会組織委員会を設立した。理事会及び常任委員会では、法人としての意思決定や大会準備及び運営における重要な事項について協議、調整を図ることを目的に開催する。

・各府県政令市実行委員会

2016(平成28)年10月に予定する競技種目及び会場の決定後は、開催地の府県政令市ごとに実行委員会を設立し、開催地における様々な分野の関係者が協力連携して開催地の強みを生かした取組を進める。

●連絡協議会

推進体制の中心を担う組織委員会及び各府県政令市実行委員会の事務局で構成する連絡協議会を設置し、各機関の進捗状況や役割分担の確認、方向性の共有などを綿密に行う。

●関係団体との連携

組織委員会は、スポーツ庁、その他関係省庁、日本体育協会をはじめ、各種関係団体等と連携し、推進体制を構築する。

●多くの人が参画できる環境づくり

大会開催によってもたらされるレガシーやその他の大会効果の最大化を図るためには、大会の準備段階から各分野の専門家をはじめ関係者の意見等を大会計画等に取り入れていくことが重要であり、関係者全員で大会を創り上げていくため、各種の専門委員会やワーキングチームなどを適宜設置するなど、本大会の取組について活発に議論・提案できる環境づくりを行う。

■業務の主管

推進体制の中心となる組織委員会と各府県政令市実行委員会が大会準備に必要な業務を分担して、各業務を主管する。

◀業務区分の考え方▶

◇組織委員会の主管業務

- ①広域的な業務推進の基本となる計画及び指針の策定並びに当該計画の実施及び推進に必要な総合調整に関する業務
- ②大会本部の運営等、広域的・総合的な大会の準備運営に関する業務
- ③開閉会式等の府県政令市実行委員会との共同実施

◇各府県政令市実行委員会の主管業務

- ①実施競技種目の準備・運営
 - ・競技会の会場地として必要な業務の計画の策定、当該計画の実施及び推進に必要な調査・調整等
 - ・競技会実施本部の運営等、競技会実施の準備・運営に関する業務
 - ・競技会場及び練習会場となる施設等の整備並びに確保に関する業務
- ②開閉会式等の組織委員会との共同実施
- ③地域文化の発信や開催地域内での参加者の案内対応・おもてなしメニューの創出など、地域独自の取組

1 大会準備における推進体制

■計画策定にあたっての基本方針

大会の開催によってもたらされるレガシーを創出するために様々なアイデアを計画に取り入れていく上で、以下を基本方針として調整を図っていく。

◇だれに対してどのような効果・恩恵が働くのかという有効性の検討

◇大会開催時点の成果だけでなく、長期にわたって継承・享受される成果を得られるのかという発展の可能性の検討

◇限られた予算の中で最大限の成果が得られるようにするための全体の効率性の検討

《実施体制図》

組織委員会及び各府県政令市実行委員会を推進体制の中心に据えて、各関係者が協力連携を図りながら大会準備を進めていく。



2 各種計画の策定

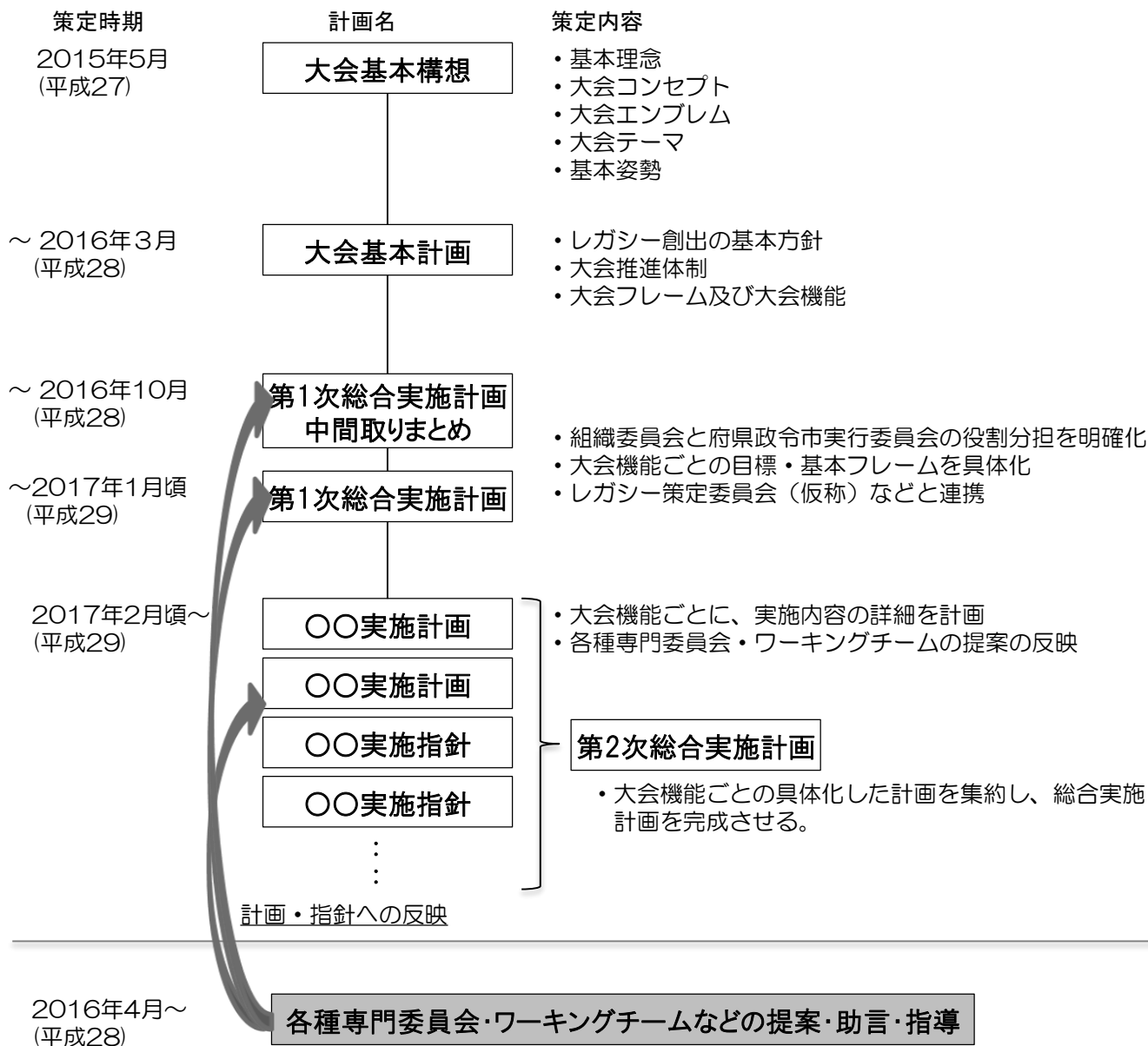
2016年10月の競技種目及び会場の決定を経て、2017年4月には各府県政令市実行委員会の本格的な活動が始まることから、推進体制の中心となる組織委員会と各府県政令市実行委員会のそれぞれが、種々の有意な意見や提案を踏まえた取組を具体化しながら、車の両輪のごとく一体となって、効率的、効果的に大会準備を推し進められるよう、両者が実施すべき内容や担うべき役割の明確化と共有が必要となる。

そのため、組織委員会と各府県政令市実行委員会の役割分担や本基本計画で定めた大会フレームや大会機能を具体化した第1次の総合実施計画について、競技種目及び会場地が決定する2016年10月の中間とりまとめを経て、2017年1月頃に策定する。

第1次総合実施計画の策定にあたっては、大会開催がもたらす有形無形の成果を最大化できるよう、新たに設置される「レガシー策定委員会（仮称）」と連携するほか、必要に応じて関係する分野の専門家の意見や助言も得て策定する。

第1次総合実施計画の策定後は、組織委員会及び各府県政令市実行委員会が、関係者と連携しながら、この計画に基づき主体的に取り組みべき大会機能ごとの計画をさらに具体化し、それらを集約して、(第2次)総合実施計画を完成させる。

■各種計画の体系



大会準備を効率的、効果的に推進していくため、大会の基本的な構成要素となる5項目の大会フレームのほか、開催のために必要な機能を12項目に分類し、項目ごとに具体的な取組の目標、実施にあたっての基本フレーム、組織委員会と各府県政令市実行委員会の基本的な役割分担を明記した。

これらを共通認識として各関係機関が連携し、それぞれのノウハウや経験を最大限に発揮して、適宜検証を行いながら、実施内容を具体化し、大会準備を推し進めていく。

なお、本章に記載した業務の流れ及び役割分担については、大会基本計画策定時のものであり、今後、検証や実施内容の具体化を行っていく中で、変更する場合がある。

■大会フレーム及び機能一覧

[大会フレーム]

1-1	大会運営体制
1-2	参加申込・出場登録
1-3	公式競技
1-4	デモンストレーション競技
1-5	開閉会式・中間イベント・EXPO・レセプション

[大会機能]

2-1	大会記録・発信
2-2	安全対策・医療救護対策・危機管理対策
2-3	宿泊・交通（輸送）
2-4	観光・文化
2-5	広報・マーケティング
2-6	知的財産の活用と保護
2-7	企業・団体協賛
2-8	ボランティア
2-9	出入国
2-10	言語サービス
2-11	財政
2-12	IMGA

1-1 大会運営体制

■目標

すべての大会参加者及びその家族や知人が安全・快適に大会に参加できるようにするため、各会場において適切な機能を設置し、おもてなし文化を発揮した受け入れ体制を整備するとともに、各会場間で大会参加者の登録情報や進行管理状況を共有できる環境を構築する。

■基本フレーム

IMGAのガイドラインを踏まえるとともに、上記の視点をもって大会運営に必要な機能を各会場に設置する。

◇大会センター

各競技会場の情報管理、プレスリリースや緊急時の対応決定などの大会全体を統括する機能を置くほか、参加者登録受付のメイン会場機能やそれに付随する機能、また多くの参加者が立ち寄る場所であることから参加者の交流の場としての機能を置く。

- ・大会統括本部 競技、式典、安全対策管理など、大会を統括
- ・結果集計センター 各競技会場の競技結果を集約
- ・メディアセンター 大会全般に関するプレス対応及び競技結果や緊急時のプレスリリースの実施
- ・サービスセンター 関係者及びメディアの交流の場
- ・出場登録受付センター 参加者の出場登録受付のメイン会場
- ・コールセンター 大会全般に関する参加者の問い合わせ総合窓口
- ・ボランティアセンター 大会センターで従事するボランティアの受付窓口
- ・EXPO（選手ヴィレッジ） 参加者交流の場としての機能、協賛企業等のPR会場

◇各開催地本部

各府県政令市実行委員会が統括的に行う機能を置く。

- ・安全対策・医療救護・危機管理本部
- ・宿泊、輸送本部
- ・各府県政令市本部

◇各競技会場本部

競技種目ごとに、試合編成や結果集計、表彰式などを行う機能を置く。同一競技種目の会場が複数ある場合は、原則として主となる会場に置く。

- ・各競技会場本部 各競技種目の運営統括本部
- ・出場登録受付センター 参加者の出場登録受付のサブ会場
- ・ボランティアセンター 各競技会場で従事するボランティアの受付窓口
- ・プレス対応 各競技種目に関するプレス対応及び競技結果のリリース

*協賛企業や地元関係団体などのブース出展を検討する。

◇開会式本部

- ・開会式の運営統括本部

◇閉会式本部

- ・閉会式の運営統括本部

◇中間イベント本部

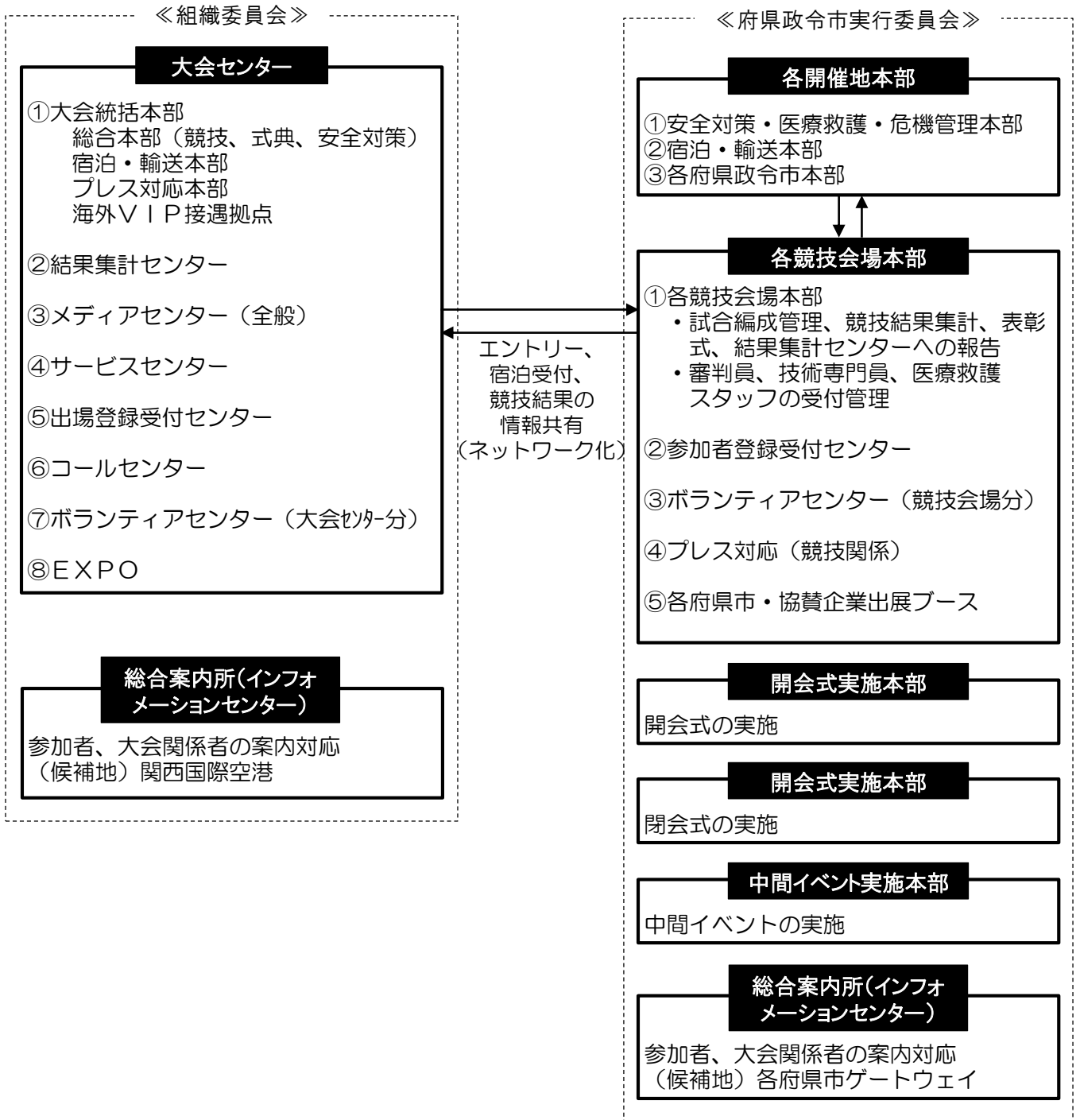
- ・中間イベントの運営統括本部

◇総合案内所（インフォメーションセンター）

- ・空港や主要駅など関西及び各府県政令市のゲートウェイとなる場所に総合案内所を設置し、競技会場や観光地へのアクセス情報、ネット接続情報の提供などを行う。

1-1 大会運営体制

[各機能及び組織委員会と府県政令市実行委員会の役割分担]



1-1 大会運営体制

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会
大会運営体制	大会センター	会場の決定	大会センター会場の決定・使用申請	○	—
		大会センター運営計画作成	大会センター運営計画の作成	○	○
		開設準備	サービスセンター・EXPO内容の調整	○	—
			会場仕様・出展ブース等調整、大会センター施設管理者との調整、スタッフの確保、設営手配、ネットワークの構築、備品等の調達	○	—
		実施	開設、運営	○	—
	府県市・競技会場 ・開閉会式本部	会場の決定	各本部会場の決定・使用申請	—	○
		運営計画作成	各本部運営計画の作成	—	○
		実施準備	出展ブースの調整	○	○
			施設管理者との調整	—	○
		実施	ネットワークの構築、備品の調達	○	○
	総合案内所	会場の決定	総合案内所会場の決定・使用申請	○	○
		案内所運営計画作成	総合案内所運営計画の作成	○	○
		開設準備	スタッフの確保、設営手配、ネットワークの構築、備品の調達	○	○
		実施		○	○
		プレス対応	プレス対応計画策定	報道対応計画の策定	○
	事前報道機関対応		事前報道機関対応	○ 右記以外	○ 各競技に関すること
	大会開催時報道機関対応		大会開催時報道機関対応	○ 大会センター	○ 各競技会場

* 参加者出場登録受付センター、ボランティアセンターは、別に記載

1-2 参加申込・出場登録

■目標

大会参加者がスムーズな手続きで事前の参加申込と大会期間中の出場登録を行えるようサポートするとともに、個人認証、個人情報管理を徹底し、効率的かつ安全な大会参加環境を提供する。

■基本フレーム

◇参加申込受付

- ・原則として、インターネットで参加申込及び参加料の決済を行う。
- ・日本語及び英語に対応する参加申込のサイトを構築する。
- ・参加申込に関する問合せ窓口を設置する。

◇出場登録受付

- ・メインの出場登録会場を1箇所設置するほか、広域での開催を考慮し、各競技種目の会場でも出場登録できる体制を構築する。（参加申込時に出場登録場所を申請してもらうことで、各参加者の出場登録場所を事前管理する）
- ・各出場登録会場で参加者に関する情報を共有できるネットワークを構築する。

◇個人認証カードの発行

- ・各参加者及び関係者に大会会場内の規制エリアへの入場パス機能を兼ねたIDカードを発行する。

◇参加者キット

- ・大会プログラムの他、関西や日本の伝統・文化の素晴らしさを発信できる記念品を提供する。

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会
参加申込・出場登録	エントリーシステム	エントリー計画策定	エントリー期間、競技種目別区分(カテゴリ、年齢区分、定員等)、参加料金(Extra fee等)、オプション(交通パス等)の決定	○ 全般	○ 競技種目別区分の調整
			参加料決済方法の決定	○	—
			競技記録集計方法の検討	○	○
		システム開発	エントリーシステム設計・プログラミング	○	—
		テスト運用	テスト大会の選定	○	○
			エントリーシステムテスト運用・調整	○	○
		システム導入	システム導入・配備作業	○	○
	参加申込	参加申込受付準備	募集要項作成 エントリーセンター開設準備（設営手配、スタッフ確保）	○ ○ 右記以外	— ○ ボランティア関係
		参加申込受付実施	エントリーセンター開設、システム運用、問合せ対応、名簿管理	○	—
	出場登録受付	出場登録計画作成	出場登録計画作成 設営手配、スタッフ確保、システム端末、ネットワーク確立	○ ○	— —
		参加者案内通知	参加者案内（出場登録受付場所・方法、競技の組み合わせ、日程等の情報を記載）作成・通知	○	○
		出場登録受付実施	出場登録受付	○ 大会センター	○ 各競技会場受付分
	参加者キット	参加者キット企画	キット内容、IDカード仕様、VIKの調整 協賛社ノベルティ等その他配付物の配付方針決定	○ ○	— —
		キット作成	キット等作成業者の選定・デザイン校正 作成数量の決定 協賛社ノベルティ等その他配付物の決定	○ ○ ○	— — ○
		キット配送計画作成	参加者キット納品・セット作業計画作成	○	○
		セット・配送	セット作業・配送実施	○	○

1-3 公式競技

■目標

国内外から参加する5万人の選手が大会期間中、試合や練習において最高のパフォーマンスを発揮できるよう、プレイヤーズファーストを意識した競技環境を構築するとともに、これらの取組を通じて生涯スポーツの発展に寄与する。

■基本フレーム

◇競技カテゴリ

- ・公式競技
IMGAが指定又は承認する30競技を実施する。

・オープン競技

公式競技に準じて、本大会公式競技として実施する。日本国内の生涯スポーツの普及及び振興の観点から、日本・関西らしさをPRできる競技を開催することとし、エントリー等の取り扱いは公式競技と同様とする。ただし、競技記録はIMGA参考記録となり、メダルは本大会独自メダルとする。

◇障がい者の参画

- ・障がい者が健常者と同じフィールドで競技することで、相互理解を促進し、共感と一体感を生み出すとともに、障がい者を含めたすべての人にそれぞれのライフステージに応じたスポーツへの参加を促し、スポーツを通じた地域の活性化を目標とする。併せて、障がいスポーツの認知度向上と普及振興に努める。
- ・障がい者は競技規則に則って競技することを原則とし、必要に応じて、競技カテゴリーの1つとしてパラリンピック種目を設ける。
- ・障がい者の参加を前提として、ボランティアスタッフの編成・育成を実施する。
- ・競技会場のバリアフリー化を推進する。

◇実施要項等の作成

- ・組織委員会は大会全体を総括する競技運営基本方針を定め、各府県政令市実行委員会は競技別実施要項を作成する。

◇競技会場、用具等の準備

- ・各府県政令市実行委員会は競技に必要な用具を調達する。ただし、特殊な用具については、組織委員会と協力し調達する。

◇プログラム作成

- ・組織委員会は総合プログラムを作成し、各府県政令市実行委員会は競技別プログラムを作成する。

◇競技運営

- ・原則として、各府県政令市実行委員会が中央競技団体及び地元競技団体と調整して競技役員を編成し、円滑な競技運営を行う。

◇表彰式

- ・各府県政令市実行委員会が表彰を行う。組織委員会は必要に応じて表彰者の調整を行う。

1-3 公式競技

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会
公式競技	実施要項・体制	実施要項等の作成	大会実施要項（総則）の作成	○	—
			競技運営基本方針の作成	○	—
			競技別カテゴリー、年齢区分の決定	○	○
			全競技種目日程の作成	○	○
			競技別定員の決定	○	○
			競技別実施要項の作成	○	○
			競技別日程・組合せの作成	○	○
			競技役員の編成計画	○	—
		競技記録員の編成	記録員の編成（本部、各会場）	○	○
	記録員の研修		○	○	
	競技実施準備	競技会場・用具	各競技会場管理者との調整	—	○
			競技用具の調達	—	○
			特殊競技の用具の調達	○	○
		競技役員関係	競技役員マニュアルの作成	—	○
			競技役員の編成	—	○
			専門技術員の派遣	○	○
			競技役員及び補助員の委嘱状の作成及び交付	—	○
		競技記録関係	競技記録集計システム、ネットワークの構築	○	—
記録員必携の作成			○	○	
競技記録本部、支部の設置			○	○	
プログラム作成	総合プログラム及び競技別プログラム編成方針の決定	○	○		
	総合プログラムの作成・印刷	○	—		
	競技別プログラムの作成・印刷	—	○		
メダル作成及び配付	メダルの作成及び実行委員会への配付	○	—		
競技実施	競技実施	競技の実施	—	○	
		記録の集計及び大会センターへの連絡	—	○	
		表彰式の開催	○	○	

1-4 デモンストレーション競技

■目標

子供から高齢者まで、だれもが気軽に参加できる多彩なデモンストレーション競技を数多く開催することで大会全体を盛り上げるとともに、全ての人のスポーツ活動への参加を積極的に推進する。

■基本フレーム

◇競技の実施準備

- 各府県政令市実行委員会は実施要項の作成や競技運営の準備など、実施に係る全ての業務を担当する。
- 組織委員会は大会プログラムや記録管理など、大会の全体運営に係る業務について参画する。

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会
デ モ ン ス ト レ ー シ ョ ン 競 技	実 施 要 項 ・ 体 制	実施要項等の作成	競技別カテゴリー、年齢区分の決定	○	○
			全競技種目日程の作成	○	○
			競技別定員の決定	○	○
			競技別実施要項の作成	○	○
			競技別日程・組合せの作成	○	○
		競技役員の編成計画	競技役員及び補助員の編成	—	○
		競技役員の研修	—	○	
		競技記録員の編成	記録員の編成（本部、各会場）	○	○
			記録員の研修	○	○
	競 技 実 施 準 備	競技会場・用具	各競技会場管理者との調整	—	○
			競技用具の調達	—	○
		競技役員関係	競技役員マニュアルの作成	—	○
			競技役員の編成	—	○
			競技役員及び補助員の委嘱状の作成及び交付	—	○
		競技記録関係	競技記録集計システム、ネットワークの構築	○	—
			記録員必携の作成	○	○
			競技記録本部、支部の設置	○	○
	プログラム作成	総合プログラム及び競技別プログラム編成方針の決定	○	○	
総合プログラムの作成・印刷		○	—		
競技別プログラムの作成・印刷		—	○		
メダル作成	メダルの作成及び配付	○	○		
競 技 実 施	競技実施	競技の実施	—	○	
		記録の集計及び大会センターへの連絡	—	○	
		表彰式の開催	○	○	

1-5 開閉会式・中間イベント・EXPO・レセプション

■目標

関西の文化、観光、産業、環境など、優れたコンテンツを世界へ発信する場とすると共に、多世代、多地域、多文化の交流を通じて相互理解を促進し、多様性の集結による共感と大会の一体感を創り出す。

■基本フレーム

◇開閉会式

・運営体制

組織委員会に加え、実施地域の府県政令市実行委員会が運営主体となる。組織委員会は、全体監修とステージプログラムを担当し、実施地域の府県政令市実行委員会は各種調整、目標達成のための賑わい創出に努める。

＜開閉会式の構成要素＞IMGA立候補ガイドラインで指定されている主な構成要素

- ・開会式…最大3人によるオフィシャルスピーチ、選手または選手の代表陣による行進又はその他の方法による参加、IMGA旗の掲揚、開会宣言、選手宣誓、地元の民族的要素を含む出し物
- ・閉会式…オフィシャルスピーチ、IMGA旗降納及び次回主催都市への引渡し、出し物、次回主催都市のスピーチ、参加者の退場、閉会宣言

◇中間イベント

- ・多種多様な参加者が交流できる場を作るため、開催期間中に賑わい創出のイベントを実施する。

◇EXPO

- ・開催期間中、大会センター内にEXPO会場を設置する。各府県政令市の自治体ブース、関連団体ブース、協賛社ブース等で構成し、出展者と来場者が触れ合う機会の最大化を図る。

◇レセプション

- ・大会期間中に、大会関係者（IMGA、IF、NF等）向けのレセプションを実施する。
- ・開会式の開催府県市にて開催するものとし、組織委員会が運営主体となる。

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会
開閉会式・EXPO・レセプション	開閉会式・中間イベント	開閉会式・中間イベント準備	式典実施計画作成	○	○
			出演者等の調整	○	○
			VIP等の輸送・配車計画	○	○
			交通規制計画	○	○
			警備・警護に関する調整	○	○
			式典会場確保、備品の調達	—	○
			VIP・協賛プログラムに関する調整	○	○
			参加者案内作成	—	○
	開閉会式・中間イベント運営	運営	○	○	
			警備・警護	○	○
	EXPO	EXPO準備	EXPO実施計画作成	○	○
			出展ブース等調整	○	○
			警備・警護に関する調整	○	○
			EXPO会場確保、備品の調達	—	○
VIP・協賛プログラムに関する調整			○	○	
EXPO運営			○	○	
レセプション	レセプション準備	レセプション実施計画作成	○	—	
		レセプション会場確保、備品の調達	—	○	
		VIP等に関する調整、招待状送付、名簿管理	○	○	
	レセプション運営	運営	○	—	
		警備・警護	○	○	

2-1 大会記録・発信

■目標

大会の競技記録を適切に集計・管理し、迅速に大会参加者及び大会関係者へ提供する。また、競技風景、各種式典風景を大会参加者、その家族や知人及び大会関係者に対して発信できる環境を構築する。

■基本フレーム

◇競技記録の集計、提供

- ・各会場から送られてくる競技記録を集計し、迅速に大会会場、大会ホームページ等へ掲載する。

◇大会風景の発信

- ・広域開催の大会の一体感を醸成するため、大会本部や選手ビレッジで大型映像装置を設置し、パブリックビューイングを展開するなど、大会風景の発信を検討する。

◇記録映像、記録写真の提供

- ・大会参加者、その家族や知人及び大会関係者へ、映像や写真等を提供するサービスを実施する。

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会
大会記録・発信	競技記録	記録の収集	競技記録の収集・整理	○	○
		記録の掲出	大会会場、ホームページ等への記録の掲出	○	○
			記録集の作成	○	—
		記録の報告	IMGA及び国際競技連盟への報告	○	○
	大会風景の発信	発信計画の策定	大会風景発信計画の策定	○	○
		撮影・発信運営	撮影スタッフの確保	—	○
			式典、競技の撮影	—	○
			パブリックビューイング設置場所の確保	○	○
	通信インフラ、インターフェイスの委託		○	—	
	提供サービス	提供計画の策定	映像、写真提供計画の策定	○	○
		撮影・発信運営	撮影スタッフの確保	—	○
			式典、競技の撮影	—	○
撮影データの集約と配信			○	○	
通信インフラ、インターフェイスの委託	○		—		

2-2 安全対策・医療救護対策・危機管理対策

■目標

競技や開閉会式など大会参加中の事故をはじめあらゆる可能性を考察し、必要な安全、医療救護及び危機管理に関する対策を立案するとともに、緊急時にも迅速かつ適切な処置及び対応ができる実施体制を整備し、だれもが安心して参加できる大会を実現する。

また、「スポーツにおけるドーピングの防止に関する国際規約」に従い、参加者への啓発活動やドーピング検査を実施し、ドーピング防止を推進する。

■基本フレーム

◇各種対策の立案・実施の方向性

- ・交通事故、雑踏事故や医療救護対応、テロや大規模災害、サイバー空間における脅威など、起こりうるリスクを考察し、それらに対する適切な措置及び対応を講じるため、対策を立案する。
- ・対策立案の段階から警察、消防、医療、保健衛生などの関係機関と綿密に連携し、対策の実施体制を構築する。
- ・対策実施のために適切な警備体制を整備するとともに、使用実績があるなど確実性のある技術を活用して、適切なセキュリティ措置を講じる。

◇ドーピング検査実施方針の策定等

- ・世界アンチ・ドーピング規程に沿ったドーピング検査方針を策定する。
- ・適切な検査員を配置するなど万全の検査体制を確立し、厳正かつ円滑なドーピングコントロールを実施する。
- ・JADA（日本アンチ・ドーピング機構）と連携し、ドーピング防止に関する広報・啓発活動を幅広く実施する。

◇大会保険への加入

- ・費用対効果を考慮するとともに、想定されるリスクを最大限に低減させるため、傷害、賠償（施設、医療等）、興行中止など必要な各種保険に加入する。

2-2 安全対策・医療救護対策・危機管理対策

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会	
安全対策・危機管理対策・医療救護対策	安全対策	安全対策指針作成	対策指針の策定、関係機関との調整	○	—	
		安全対策計画作成	大会会場・施設の事前調査	【A】	○	—
				【B】	—	○
			安全対策計画の策定及び関係機関との調整	【A】	○	○ *1
		【B】	—	○		
	実施準備	各本部の通信機器、設営等の手配、警備の手配、備品の調達等	【A】	○	—	
	【B】	—	○			
	実施	実施体制の配備	【A】	○	—	
	【B】	—	○			
	危機管理対策	危機管理対策指針作成	対策指針の策定、関係機関との調整	○	—	
		危機管理対策計画作成	大会会場・施設の事前調査	【A】	○	—
				【B】	—	○
			安全対策計画の策定及び関係機関との調整	【A】	○	○ *1
		【B】	—	○		
		サイバーセキュリティ対策実施	エントリーシステムのセキュリティ対策等	○	—	
	実施準備	各本部の通信機器、設営等の手配、警備の手配、備品の調達等	【A】	○	—	
	【B】	—	○			
	実施	実施体制の配備	【A】	○	—	
	【B】	—	○			
	医療救護対策	医療救護対策指針作成	対策指針の策定、関係機関との調整	○	—	
医療救護対策計画作成		医療救護対策の策定及び関係機関との調整	【A】	○	○ *1	
		【B】	—	○		
実施準備		各本部、救護所の通信機器、設営等の調整、医療救急備品の調達等	【A】	○	—	
【B】	—	○				
実施	実施体制の配備	【A】	○	—		
【B】	—	○				
ドーピング	広報・啓発活動	ドーピング防止に関する広報・啓発活動	○	—		
	検査方針の決定	ドーピング検査方針決定	○	—		
	検査体制の確立	検査員、シャペロンの編成及び派遣調整	○	○		
	検査の実施	検査対象者の選定	○	○		
		検体の採取	—	○		
検査の実施	○	—				
保険	保険の設計	保険内容の調整	○	—		
	保険の加入	保険加入	○	—		

【A】大会センター

【B】各競技会場、開閉会式、中間イベント

*1は、実施場所実行委員会のみ

2-3 宿泊・交通(輸送)

■目標

大会参加者、その家族や知人及び大会関係者の多様なニーズに応じた、十分かつ適切な宿泊施設の情報を提供するとともに、大会期間中のスムーズな移動を実現するため、環境を整備する。

■基本フレーム

◇宿泊計画

- ・府県政令市の宿泊キャパシティの把握、宿泊者数の想定数を割り出し、計画を作成する。
- ・旅行会社や自治体等と連携し、様々な種類の宿泊オプションを準備する。

◇交通(輸送)環境整備

- ・各競技会場地と宿泊地間や、開催都市間のスムーズな移動を実現するため、交通事業者等と連携し、交通パスの導入や臨時輸送サービス、その他情報の提供等を検討する。

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会	
宿泊・交通(輸送)	宿泊	宿泊計画作成	各競技会場付近の宿泊施設等の実態調査	○	○	
			大会参加者・関係者等の宿泊者数概算	○	○	
			宿泊計画の策定、宿泊施設等との調整	○	○	
		宿泊情報準備・提供	旅行会社・自治体等との連携	○	○	
			参加者への宿泊情報提供	○	○	
			VIP宿泊手配	○	—	
	交通(輸送)	交通(輸送)計画作成	交通(輸送)計画作成	○	○	
			交通情報準備・提供	交通事業者等との連携	○	○
				参加者への交通情報提供	○	○
		VIP交通手配	○	—		

2-4 観光・文化

■目標

関西の豊かな観光資源、文化資源を活用した多様なプログラムとおもてなしメニューを用いて、わが国で連続開催される大規模国際スポーツ大会の最後にふさわしいスポーツツーリズムを実践する。

■基本フレーム

◇観光文化振興計画

- ・各府県政令市における、観光・文化資源の抽出並びに関係機関と連携した計画を策定する。
- ・競技開催地と観光施設等を組み合わせた、適切なツーリズムルートを確立し、販売を検討する。
- ・公営文化施設の無料化、割引等のサービスを検討する。
- ・国内外（特にアジア諸国）の多様な個人、団体による観光・文化プログラムを展開する。

◇パンフレット計画

- ・観光と文化の情報を提供できるよう、パンフレットを作成し、参加者全員に配布する。
（組織委員会では関西全域、府県政令市実行委員会では各府県市詳細版を作成）

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会
観光・文化	観光・文化振興	観光・文化振興計画	観光・文化振興計画作成	○	○
		ツーリズムプラン作成	各府県市の観光・文化資源の抽出	○	○
			関係機関と連携したツーリズムプランの確立と販売	○	○
		観光・文化プログラム計画	プログラム計画作成	○	○
		プログラム準備・運営	式典プログラム等の出演者、出展者等の調整	○	○
			式典プログラムの運営	—	○
			警備・警護	—	○
		観光・文化パンフレット作成	パンフレットの編集方針の作成	○	○
		組織委・・・関西全域版	パンフレット編集・作成	○	○
		実行委・・・府県市詳細版	パンフレット印刷・配送	○	○
	パンフレット配布	○	○		

2-5 広報・マーケティング

■目標

国内外の多種多様な5万人の選手とその同伴者の参加目標数に沿った広報計画を策定し、広報活動を展開するとともに、生涯スポーツ社会の実現に寄与するプロモーション活動を展開する。

■基本フレーム

◇国内における広報活動

- ・国内参加選手の目標数に沿った広報計画を策定する。
- ・大会コンセプトやレガシーを踏まえた広報活動を展開する。

◇国外における広報活動

- ・国外参加選手の目標数に沿った広報計画を策定する。
- ・過去大会参加者への直接的な広報活動を展開する。

◇前回大会(オークランド)を契機とした活動

- ・オークランド大会を契機として、参加者はもちろん、メディアも含めた関係者の意識を高める。

◇大会を契機とした生涯スポーツ社会の実現

- ・人々が長期に渡りスポーツに触れられる機会を創出する。
- ・大会開催後も生涯スポーツ先進地域として世界に発信を続ける。

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会
広報・マーケティング	広報・PR	広報計画策定	大会目標に沿った広報計画の策定	○	—
			各開催地における広報計画の策定	○	○
			国外における広報計画の策定	○	—
		事前・大会期間の広報PR	開催府県市域内への広報・PR (ポスター、新聞、テレビ、ラジオ等)	○	○
			国外への広報・PR (ポスター、新聞、テレビ、ラジオ等)	○	—
			大会HPの運営	○ 公式HP	○ 府県市別HP
			前回(オークランド)大会を契機としたPR	○	—
			応援大使の活用	○	○
		生涯スポーツ推進	生涯スポーツを目的としたスポーツ教室などの運営と広報	○	○
			開催後のマスターズスポーツフェスティバルの運営と広報	○	○

2-6 知的財産の活用と保護

■目標

本大会を表現する、名称、エンブレム、マスコット等のブランドアイデンティティを活用し、大会価値を高める。また、それら知的財産、及び大会関係者に許諾した、知的財産の使用権を適切に管理・保護する。

■基本フレーム

◇知的財産の創出及び活用

- ・本大会を表現するブランドアイデンティティを創出する。
- ・ブランドアイデンティティのガイドラインを作成・公表し、適切な活用を行う。
- ・ブランドアイデンティティを各所で統一的に展開し、大会ムーブメントの醸成に寄与させる。

◇知的財産の保護計画及び運用

- ・本大会の知的財産の権利を、法的な手続きをもって保護する。
- ・知的財産の使用権を許諾した関係者に対して適切な管理を行なうとともに、アンブッシュマーケティングを防止するなど、使用権を保護する活動を行なう。

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会	
知的財産の活用と保護	活用	知的財産の活用	ブランドアイデンティティの創出	○	—	
			ブランドアイデンティティのガイドライン作成	○	—	
			ブランドアイデンティティの活用	○	○	
	保護	知的財産保護の計画策定	知的財産保護の計画策定	知的財産保護の計画策定	○	—
				知的財産となり得る項目の抽出	○	—
				知的財産権の法的処理	○	—
		知的財産の運用	知的財産の運用	知的財産の使用許諾と管理・保護	○ 組織委スポンサー	○ 実行委スポンサー
				〃（メディアなど関係者対象）	○	○
				アンチアンブッシュマーケティングの遂行	○	○

2-7 企業・団体協賛

■目標

大会収支を踏まえた上で、大会価値を理解し、相互にメリットを創出できる企業、団体から協賛を獲得する。

■基本フレーム

◇協賛活動計画

- ・組織委員会設立～2017年12月を第一期協賛、2018年1月～大会終了後までを第二期協賛とする。
- ・組織委員会と各府県政令市実行委員会で、依頼企業の重複を避けるため事前に調整をかける。
- ・組織委員会と各府県政令市実行委員会は、協賛プログラムで定められた項目を履行する。
- ・VIK（現物）協賛で賄う項目を抽出し、企業・団体に対して依頼をする。

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会
企業・団体協賛	協賛活動	協賛計画策定	第二期協賛計画の策定	○	—
		協賛社獲得準備	協賛候補企業のリストアップと調整	○	○ 地元企業
			VIK協賛対応の項目抽出	○	—
			協賛プログラム(セールスシート)の作成	○	○
		協賛社獲得	協賛社への依頼	○	○ 地元企業
			VIK協賛社への依頼	○	○ 地元企業
		協賛社管理	協賛社との連携・連絡等	○	○
		協賛プログラム履行	各種広報物への協賛社名露出等	○	○

※協賛計画・・・協賛の全体フレーム（協賛金収入目標、協賛社数、協賛ランク割り振り、組織委員会と各府県政令市実行委員会の棲み分け等）

※協賛プログラム・・・協賛企業に対する、具体的な協賛メリット（露出メニュー等）

2-8 ボランティア

■目標

ラグビーワールドカップ2019や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会とも連携を図りながら、大会の成功に向けて必要な人材を確保し、効率的な研修、管理等の取組を行うとともに、それらを通じて多様な人材の活躍を促進し、スポーツ活動を支えるボランティア文化の醸成に寄与する。

■基本フレーム

◇ボランティアの確保に向けた施策の方向性

- ・従事する業務ごとに、必要なボランティアスキル、人数、業務場所、業務時間、業務内容などの計画及びそれに基づいた募集計画を作成する。
- ・企業や大学、またラグビーワールドカップ2019や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の組織委員会等と連携して、ボランティアの確保や参画のための環境の整備を進める。

◇組織委員会と府県政令市実行委員会の役割分担

- ・ボランティアの動員及び募集計画は、組織委員会が中心となって策定を進める。
- ・募集、管理等は、以下のとおり配置場所に依拠して分担する。
 - 【A】大会センター、総合案内所(組織委員会設置分)…組織委員会及び開催地域の府県政令市実行委員会
 - 【B】各競技会場、開閉会式、中間イベント、総合案内所(各府県政令市実行委員会設置分)…各府県政令市実行委員会
- ・ボランティア備品は、組織委員会で一括作成する。

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会
ボ ラ ン テ ィ ア	ボ ラ ン テ ィ ア 募 集	動員・募集計画	ボランティア動員指針の策定	○	—
			通訳ボランティアの確保方法検討	○	○
			ボランティア動員・募集計画の作成 【A】 (募集期間・業務内容・配置等) 【B】	○	—
			—	—	○
	団 体 ・ 通 訳 ボ ラ ン テ ィ ア 依 頼	各種団体への動員依頼	【A】	○	○ *1
			【B】	—	○
			通訳ボランティアの動員依頼	○	○ *1
	一 般 募 集	ボランティア募集要項作成	【A】	○	—
			【B】	—	○
	ボ ラ ン テ ィ ア 備 品	備品内容調整	ボランティアセンター設置、募集、 名簿作成、管理	○	—
			【A】	○	○
			【B】	—	○
	テ ィ ア 備 品	備品作成	ボランティア備品内容、VIKの調整	○	○ 独自作成物
			ボランティア備品の作成	○	○ 独自作成物
			ボランティア備品の各実行委員会への納品	○	—
研 修 実 施	備品管理	ボランティア備品仕訳、管理	○	—	
		【A】	○	—	
	研 修 準 備	研修指針作成 研修計画・資料作成、研修会場確保	【A】	○	—
			【B】	—	○
研 修 実 施	研修通知・実施、ボランティア備品配付	【A】	○	—	
		【B】	—	○	
大 会 時	受付・管理	受付、欠席対応、配置指示、管理	○	—	
		【A】	○	—	
		【B】	—	○	

*1は、実施場所実行委員会のみ

【A】大会センター、総合案内所(組織委員会設置分)

【B】各競技会場、開閉会式、中間イベント、総合案内所(実行委員会設置分)

2-9 出入国

■目標

大会参加のために、国外から訪れる大会参加者、その家族や知人及び大会関係者に対して、円滑で快適な出入国をサポートする。

■基本フレーム

◇政府、空港会社等との調整

- ・ 入国管理局等と協議し、迅速なビザ交付をサポートする。
- ・ 武器の輸出入等について税関や空港関係者と調整し、円滑な入国手続きをサポートする。

◇入国のサポート

- ・ 入国に関する情報提供を行う。
- ・ 入国に必要な招聘状等の書類を準備し、必要な参加者に提供する。

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会
出入国	ビザ	ビザ交付	政府と調整し円滑なビザ交付を進める	○	-
	招聘状	招聘状の発行	ビザの発行に必要な国の参加者に対して招聘状を発行する	○	-
	特殊用具	特殊用具の持ち込み	政府、航空会社等と調整し武器となる銃の持ち込みなどの特殊用具の持ち込みを円滑に行う	○	○

2-10 言語サービス

■目標

多言語対応ボランティアの確保や多言語によるサイン掲出など、多様な言語サービスを提供し、多地域、多文化の円滑な交流を実現する。

■基本フレーム

◇通訳、多言語対応ボランティアの確保及び配置

- ・企業や大学等と連携し、経験豊富で多くの言語に対応できる通訳やボランティアスタッフを確保し、エントリーセンターや競技会場など、必要な会場に配慮する。

◇多言語によるサイン掲出や会場アナウンスの実施

- ・多言語でサインを掲出するとともに、できるだけ多くの言語で会場アナウンスを実施する。

◇多言語による情報の提供

- ・大会情報、観光情報、報告書などを多言語により提供する。

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会
言語サービス	言語サービス	言語サービス計画	言語サービス提供の基本指針の策定	○	—
			言語サービス計画の作成（サービス内容、スタッフ数等）	○ 組織委員会担当会場	○ 実行委員会担当会場
		スタッフの確保・管理	通訳の手配	○	○
			言語ボランティアの確保	○	○
		言語サービスの実施準備	大会情報の多言語化、大会特有の用語集の作成	○	○
			サインのデザイン作成	○	○
スタッフ研修の実施	○		○		
実施	多言語対応スタッフの配置、多言語による会場アナウンスの実施及びサインの掲出	○	○		
	報告書等の翻訳	○	○		

2-11 財政

■目標

大会開催に必要な収入の確保と効率的な予算執行に努めるとともに、財政リスクに対する適切な対応を図り、健全な財政を維持する。

■基本フレーム

◇財政計画

- 適切な事業の執行と財政リスクの管理に向けて、大会開催年までの組織委員会の大会収支計画を定める。

◇大会参加料金

- ガイドラインに従いIMGAとの調整を踏まえながら、大会の参加者を最大化できるよう、早期割引や団体割引の導入も検討し、参加料金を設定する。
- 特殊経費が発生する競技種目については、特別参加料金を設定する。
- 交通パスに係る参加料金については、オプション設定とする。

◇財務

- 適切な会計事務、出納、財務管理を行うとともに、各種保険の加入や為替予約により、財政上のリスクを低減させる。

◇オフィシャルグッズ

- ロゴ、マスコット等の利用に関するガイドラインを作成し、ライセンス契約によりグッズを販売する。
- 国内企業や団体のノウハウを活用して関西・日本の技術・文化・伝統を反映したグッズを販売できるよう、各方面に働きかけを行う。

◇組織委員会の解散手続き

- 組織委員会の解散計画を策定し、解散プロセスを実行する。

■業務の流れ及び役割分担

項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会
財政	財政計画	大会収支計画	大会開催年までの組織委員会の年別収支計画を作成	○	—
		参加料金の設定	参加料金、特別参加料金、早期割引、団体割引等の検討 IMGAとの調整、決定	○ ○	— —
	オフィシャルグッズ	プロパティ管理	ロゴ、マスコットキャラクター等の商標管理、規程作成	○	—
		販売準備	ライセンス企画書の作成	○	—
			ライセンス契約企業の募集、契約	○	—
			販売場所の確保 契約企業との調整、管理	○ ○	○ —
	販売	販売	○	—	
	解散事務	解散計画	解散計画の策定	○	—
		解散プロセス	解散プロセスの実行	○	—

2-12 IMG A

■目標

IMG Aと良好な協力関係を確立し、IMG Aのガイドラインに則り滞りなく大会を運営するとともに、大会を通じて培った協力関係を継続し、国際スポーツ大会の開催等の将来的な活動に繋げていく。

■基本フレーム

◇IMG A事務局との調整

- IMG A事務局に対し、定期的な進捗報告を行うとともに、必要な助言指導を仰ぐ。

◇IMG A理事会での報告等

- IMG A理事会で必要な報告や決議事項について、推進スケジュールに合わせて進捗管理を行い、確実に実施する。
- 大会期間中等のIMG A理事会の開催に向けた準備、調整を進める。

■業務の流れ及び役割分担

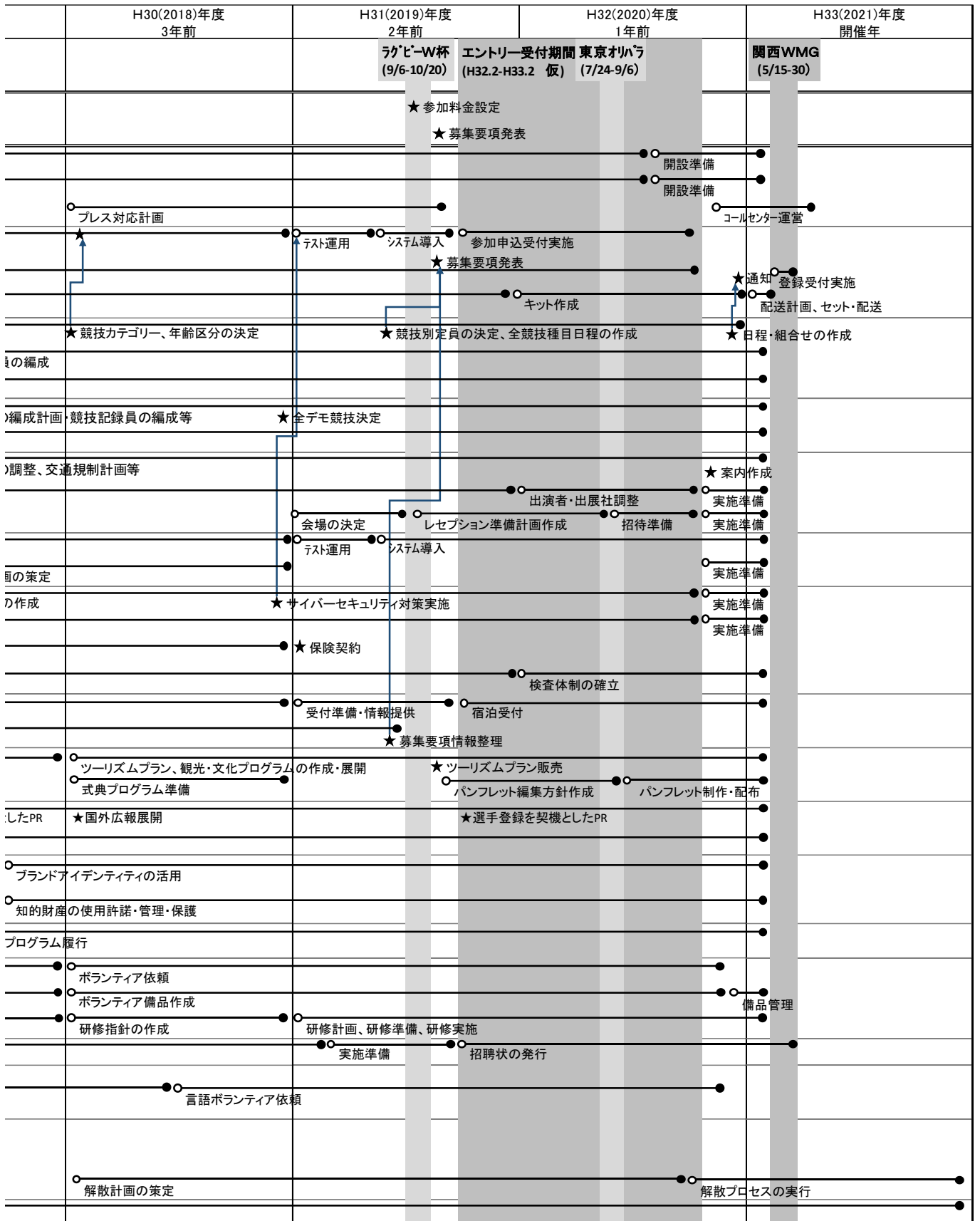
項1	項2	項3	業務概要	組織委員会	実行委員会
I M G A	調整	IMG Aとの調整	大会準備の進捗報告等、IMG A理事会での報告及び決議事項の調整、報告・プレゼンテーション資料等の作成	○	—
	理 事 会	理事会の開催準備	IMG Aとの調整、会場手配等	○	—
		理事会の開催	理事会の開催	○	—

第6章 推進スケジュール



年度		H27(2015)年度 6年前	H28(2016)年度 5年前	H29(2017)年度 4年前
			競技・会場決定 (10月)	WMGオーケラント* (4/21-30)
大会フレーム			★開催地実行委員会設置	
大会運営体制	大会センター 各本部、総合案内所 プレス対応		○大会センター運営計画の作成 ○大会運営計画の策定	
参加申込・ 出場登録	システム、参加申込受付 出場登録受付 参加者キット		○エントリー計画策定 ○参加者キットの企画	○システム開発 ○出場登録計画の作成
公式競技	実施要項・体制 競技実施準備		○競技運営基本方針・役員編成 基本方針の作成等 ★競技別定員の仮決定	○実施要項等の作成 ○競技役員・競技記録員の編成 ○競技会場・用具、競技役員等
デモンストレーション 競技	実施要項・体制 競技実施準備		○運営基本方針の作成	○実施要綱等の作成、競技役員・編成計画 ○競技会場・用具、競技役員等
開閉会式・中間 イベント・EXPO ・レセプション	開閉会式・中間イベント EXPO レセプション		○開催規模・実施体制の検討 ★会場決定 ○開催規模・実施体制の検討	○式典準備計画作成、出演者等の調整、交通 ○会場確保・実施計画の作成
大会記録・発信	競技記録 大会発信、サービス		○競技記録集計システム、大会風景 発信方法の検討等	○システム開発 ○発信計画、提供サービス計画の策定
安全対策・医療救護 対策・危機管理対策	安全・危機管理対策 医療救護対策 保険 ドーピングコントロール		○安全・危機管理対策指針の策定 ○医療救護対策指針の策定	○安全・危機管理対策指針の作成 ○医療救護対策計画の作成 ○保険の設計 ○ドーピング検査方針の決定
宿泊・交通(輸送)	宿泊 交通(輸送)	○施設調査、ニーズ調査 ○輸送計画の方針決定	○計画方針策定	○宿泊計画策定 ○輸送計画の決定
観光・文化	観光・文化 式典、パンフレット		○計画の方向性検討	○観光・文化振興計画の策定
広報・マーケティング	広報・PR 生涯スポーツ推進	○広報計画策定・国内外展開 ○生涯スポーツ教室などの展開	★参加選手目標に沿った計画策定	★オーケラント大会を契機としたPR
知的財産の 活用と保護	活用 保護		○ブランドアイデンティティの創出 ○知的財産保護計画作成	○ガイドライン作成 ○知的財産法的処理 ○知的財産
企業・団体協賛			○協賛計画・協賛プログラム作成	○協賛セールス、協賛社連携・管理・協賛プログラム
ボランティア	ボランティア募集 ボランティア備品 研修、実施		○指針策定、推進体制の構築 ○ボランティア備品内容調整	○動員・募集計画 ○研修指針の検討
出入国	ビザ、招聘状		○関係省庁調整	
言語サービス	サイン掲出 多言語情報の提供		○指針策定	○言語サービス計画策定
財政	財政計画 オフィシャルグッズ 解散事務		○指針策定 ○計画の策定	○以降、計画の精査、調整
IMGA	調整、理事会	○各種報告、調整		

第6章 推進スケジュール



関西ワールドマスタースゲームズ2021 大会基本計画

～スポーツ・フォー・ライフの開花～
The Blooming of Sport for Life

2016年3月発行

一般財団法人関西ワールドマスタースゲームズ2021組織委員会
〒530-6691 大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル23階
TEL 06-6446-2021 FAX 06-6445-8541
URL <http://www.wmg2021.jp/>
Facebook <http://www.facebook.com/wmg2021>

